

ユニーはエコ・ファースト企業としてユニーグループ・ホールディングスのグループ力を活かして地域に根差した環境・社会貢献に取り組み、持続可能な企業を目指します。



ユニー株式会社 代表取締役社長

佐古則男

ユニーグループ・ホールディングスが2013年2月21日に誕生しました。グループ17企業の多様な企業力を活かしたグループ力で、企業活動を通じた環境社会貢献活動を、さらに進展させ果敢な挑戦を続けます。そしてユニーが2008年に環境大臣と交わした最初の「エコ・ファーストの約束」は2013年3月に達成することができました。そして次の約束を締結し、持続可能な社会を実現していくことを目指しています。次なるユニーの姿を、佐古則男代表取締役社長への百瀬則子環境社会貢献部長によるインタビューで紹介합니다。(インタビュー：2013年6月18日)

エコ・ファースト企業として

百瀬 ユニーが環境先進企業として小売業界で唯一「エコ・ファーストの約束」を環境大臣と交わし、その約束を果たすことができました。特に、最近世界的に問題になっている「食品廃棄物」をリサイクルループにより再生利用できたことは、食品関連事業者として、誇れることです。そしてその功績により第34回食品産業優良企業等表彰環境部門で「農林水産大臣賞」を受賞しました。食品産業の賞を小売業が受賞できたことはとても光栄なことです。

佐古 ユニーが総合小売業界で唯一「エコ・ファースト企業」に選ばれたのは、①“地産地消”の食品リサイクルループの推進と環境学習の実施、②持続可能な社会の構築に向けた活動、③消費者のライフスタイル変革による低炭素社会循環型社会実現の推進、が評価されたからです。

百瀬 こうした環境活動は、ユニーが本業の中から課題を抽出し、店舗で具体化したもので、地域のお客様やNPO、自治体と一緒に進めてきたものです。

特別なことではなく、誰でも参加できる環境貢献を、ユニーに買い物に来ていただければ実現できるということが大切だと考えます。

佐古 環境活動は、日常生活で参画できる

ことが最も活動の広がりを期待できると考えています。全店舗での環境学習の定期的な開催が環境活動の広がりや定着の鍵です。「エコ・ファーストの約束」の達成は、地域をより良くしたい思いで取引企業・団体やお客様と協働した成果だと、全ての方に感謝します。ホールディングスとして、エコ・ファーストやISO14001（国際標準化機構の発行する環境マネジメントシステムに関する国際規格）に沿ったユニーの取り組みをグループ全社に拡大・共有していくことが、これからの使命だと考えています。

新しい店づくり

一地域における店舗の役割を果たす

百瀬 ところで社長に就任されて、ユニーの店舗にどのような抱負を抱いているのでしょうか。またホールディングスのグループの一員としてはいかがでしょうか。

佐古 環境・社会貢献への期待は大きいと考えています。ご来店いただくお客様にバリアフリーは当然のこと、あらゆる客層に安心・安全を届けます。子育て世代への支援として赤ちゃんスペースを見直し、より使いやすくするよう重点的に取り組んでいます。小売業というのは、物とサービスの販売だけでなく、地域にとってのコミュニティの場としての役割もこれからは強く求められてい

ます。また地域の公共の場としての期待もあり、行政や各種団体とのコラボレーションで、さまざまな使い方を提案していきたいですね。

百瀬 特に高齢者へのお買い物サポートとして、名古屋市などでは地域の社会福祉協議会などと連携して、市内巡回バスの停留所にピアゴやアピタの店舗を使ってもらい、小売業ならではの地域活動を行っています。

佐古 我々が目指すのはBuyではなくてShoppingです。買い物をお客様の喜びの一つにできるよう、店舗は地域の方々の精神的な充足感を得る場所にしたい。従業員には義務感だけでなくボランティア精神も必要でしょう。

百瀬 2013年3月にボランティア活動に対する「第4回Make a CHANGE Day」の奨励賞をいただきました。店舗周辺の長年の美化活動「全店一斉クリーンアップキャンペーン（1府19県）」が継続・発展性に富む活動だと評価されました。地味な活動を認めてくれたことに、うれしさが込み上げました。

佐古 清掃活動は店舗では当たり前前の活動です。この当たり前のことを誇りに思い継続していくという点で、受賞の意義は大きいですね。

百瀬 本部からの指示ではなく、多くの店舗が少し足を延ばして公園や地下鉄の通路などを清掃しました。通りすがりの方から